

2010年12月6日
郵便局株式会社 北海道支社

オリジナルフレーム切手セット『北海道遺産』の販売と贈呈式の開催について

郵便局株式会社北海道支社（札幌市中央区北2条西4丁目3番地、支社長 植村 邦生）は、下記のオリジナルフレーム切手セットの販売を開始します。

このオリジナルフレーム切手セットは、「北海道遺産」を題材にしたもので、北海道の郵便局で限定販売するものです。

記

1 切手の概要

セット名称	北海道遺産
販売開始日	平成22年12月10日（金）
デザイン	別紙のとおり
販売部数	5,000セット（予定）
販売郵便局	北海道の全郵便局（1,215局）※簡易郵便局を除く。
商品内容	オリジナルフレーム切手×1シート（80円切手×10枚） 解説紙×1部
販売単位	セット単位で販売します。
販売価格	1セット 1,300円

2 贈呈式の内容

実施日時	平成22年12月10日（金）10:00～（予定）
場所	北海道庁 3階 知事会議室 〒060-8588 札幌市中央区北3条西6丁目
受贈者等	受贈者：北海道 副知事 多田 健一郎（ただ けんいちろう）様 贈呈者：郵便局株式会社 北海道支社 営業本部長 志子田 正則（しこた まさのり）

3 その他

本フレーム切手は、通信販売を行いません。販売郵便局でお買い求めください。

以上

【報道関係の方のお問い合わせ先】

郵便局株式会社北海道支社企画部（広報・CSR担当）

電話：（直通）011-214-4005（FAX）011-214-4404

【お客様のお問い合わせ先】平日：9:00～17:00

郵便局株式会社北海道支社営業本部（物販担当）

電話：（直通）011-214-4184

北海道遺産

次世代に引き継ぎたい北海道の大切な宝物です。豊かな自然はもちろん、歴史・文化・生活・農業など有形・無形の財産の中から、道民参加によって選ばれました。

平成13年10月に第1回選定分26件が、平成16年10月に第2回選定分27件が選ばれました。

次世代に引き継ぎたい北海道の宝物

旧国鉄土幌線コンクリートアーチ橋梁群

上士幌町

昭和初期に上野内線の森林資源の搬送を目的に建設された第一級の鉄道橋樋、廃線跡、解体されそうになったアーチ橋梁を中心とした活動で保存を実現。大小60のアーチ橋が現存している。中でも手間によって見出される「タウシ・ペツル橋樋」(下路)、32mの大アーチを持つ第三音西川橋樋(世界有名)、地元の手で作られた橋樋用ヘリコートの発見など、全国的にも市民的功績のモデルとされている。

登別温泉地狱谷

登別市

地獄谷は北海道を代表する温泉地・登別温泉最大の源泉、延長450mの谷底には大湯原を中心とした地獄があり、毎年3,000人が観光客として来ている。登別温泉は「温泉のデパート」と形容され、11の泉質が抽出しており、これは世界記録である。地獄谷の温泉には表面温度が40~50度になる大湯原、蒸ら白湯が立ち上り、森山植物の名所としても知られる日御山、登別川原生林などが広がる。

北限のブナ林

札幌市内

ブナは都市を代表する樹種で、北海道では斜戸半島だけに分布する。墨田内町はその北限で、太平洋側の斜戸半島と日本海側の中央部を結ぶ黒松内軽便鉄道が境界線。黒松内町では、自然の恵みを伝えるアーティセンターや白樺子夜の街など、ブナ林が行き届かず生き残る多様性を活かした取り組みが進められている。また、温泉の七飯町には暮来に在住したドイツ人ゴルトナーの植林したブナ木の林がある。

根釧台地の格子状防風林

中標津町など

中標津町、別海町、標津町、標津町にまたがる根釧防風林は、スペースシャトルからも観察されたように、そのスクールにおいても地球規模的な、北海道ならではの特大なもの。幅180m、延長1648kmの林帯は、防風結果だけではなく野生生物のすみかや移動の道筋としての機能も果たしている。開拓時代の殖民地区画を示す歴史的意義も打つ。

大幌川

洞爺湖町

大幌川は延長256km、北海道第2位の長大河川。松浦武四郎は天正川の内陸調査の途上で「北海(大幌)川」を命名したとされる。川の名前の由来となったテッシ(アリスト)で「境の意味」が多く古く申し、河口までの約160kmを一気に下ることができる日本有数のカヌー適地としても知られ、爱好者たちは20箇所のカヌーポートから大幌を下っていく。

森林鉄道蒸気機関車「雨宮21号」

苗穂町

「雨宮21号」は東京・南洋精機(現・日立造船)で製造された初の国产11トン機関車。昭和3年、丸瀬布・喜茂別森林鉄道に配備され、国有林から伐採された丸太生木を搬出する鐵道に携わってきたが昭和36年に廃止。地元の強い要望で昭和61年、北海道森林から日高瀬川町に譲渡され、町は「森林公園といいの森」を建設、強制伐木を走らせた。強制伐木は区内では唯一のもの。

雨竜沼湿原

南竜町

肩曲り地の標高850mにあり、北海道の山地湿原の中ではもっとも大きな面積湿地。人口少ない地区(12戸)が700以上あり、種類の多様性を見せる。湿原植物が豊富で、昭和39年に道指定天然記念物、平成2年に農務省(現・農林水産省)特別保護地区に指定された。「雨竜沼湿原を愛する会」による活動は、湿原を水素に伝える大切さと難しさを教えてくれる。

嬉神大神宮渡御祭と社参迫

江差町

嬉神大神宮渡御祭の起源は約370年前にさかのぼる。その年のニシンの回収に感謝を込めて行われたお祭りで、現在も毎年8月9日~11日にまちは祭り一色となる。13台の山車(幸車)が林間魔子の清々しくて町内を練り歩くままにはるけ山車(幸山車)の馬鹿船をループに、北中の新しい風土にもまれながら多くの先祖に明け渡してきた。日本国内外だけでなく、海外にも多くの爱好者を持つはるか遠い日本のニシン漁業をPRに嵌れる。

ニッカウヰスキー余市蒸溜所

余市町

社説のウイスキーづくりを始めた竹鶴政吉は、渾然たる気と運でもあまり気弱の上がらない氣魄に加え、近くに良質なビートに恵まれた余市をその発地として選んだ。ニッカウヰスキー余市蒸溜所は昭和11年、ボットスチーブン大火で直撃されモルトウイスキーの製造が開始されて以来、当時と変わらない製法でウイスキーの蒸留、貯蔵を行っている。

札幌苗穂地区の工場・記念館群

札幌市

札幌市の創成川以東は、豊平川の伏流水や荷物輸送の利便性などによって駒留駅から「産業のまち」として栄え、今も沿岸開拓をはじめ、さまざまな工場や倉庫がひしめき。町内を穿過する開拓渠を流れる。駒留駅近隣にある北海道駿馬技術館、サッポロビール博物館、雪印乳業史料館は内容も充実し、北海道の産業史を知ることでも貴重な記念施設を形成する。

ピアソン記念館

北見町

アメリカ人宣教師G.P.ピアソン夫婦の私邸として大正3年に建てられた。夫婦は道内各地を伝道し、その終着に選んだ地がアイヌ語で「地の果て」を意味する野付(現在の北見)。皮効泥漬や葛内活動など、夫婦の心は今も北見の精神文化のよりどころとして多くの市民に親しまれている。設計者は近頃兄弟社角善吉としても知られているM.M.ガーリズ。

江別のれんが

江別市

開拓船は内陸部貧弱の建築資材にれんがを笠原として、道内北見川17の工場で造られたれんがによって、北海道府のれんが疗養院をはじめ多くの名社社が生まれた。大正以前、れんが製造の中心は伊達郡が豊富な石炭の野幌開拓に移り、現在も3つの工場が稼働している。区内には小学校、サブロ、民家など400棟以上のれんが建物が美しい姿で現存している。

内浦湾沿岸の縄文文化遺跡群(中空土偶)

函館市、伊達市など

内浦沿岸は北海道と本州を結ぶ縄文文化の交易路で、函館市の南端部地区には現約1万点の遺跡が確認されている。これまでに出土した遺物は400万点を認めており、若狭野遺跡で発掘された「中空土偶」は北海道の國宝に指定されている。伊達市の北古堂貝塚は、縄文早期(7000年頃)~中期(8000~4000年前)の遺跡で、住居や墓地内にほとんど倒れない「水場の祭祀場」が発見されている。

ジンギスカン

北海道各地

ジンギスカン料理の発祥については諸説があるが、北海道でもっとも広くかつ特徴的に発達した。人間に最も嗜好はみられるが、味付けなど羊肉を美味しい食べる「人が刺され、薪しい」料理として北海道で確立したといえる。焼肉の魅力の一つであるとともに、花火などでも庶民であるジンギスカンは、鍋を囲んで人と人をつなげる役割も果たしている。